

■殺菌剤：農業用

スターナ[®]水和剤

登録番号：17203
 毒性：－
 消防法：－
 有効年限：4年

成分 オキシロニック酸……20.0%
 物理的・化学的性状 類白色水和性粉末 45 μ m以下

包装：500 g × 20 1 kg × 10

◆特長

- 細菌病専用防除剤で、既存剤とは異なる作用性を持つ薬剤です。
- 馬鈴薯・野菜類の軟腐病に優れた効果を発揮します。
- 病原細菌の増殖抑制効果が主体ですので、予防的に散布することで最大限の効果を発揮します

◆適用と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキシロニック酸を含む農薬の総使用回数	
稲	もみ枯細菌病 苗立枯細菌病 褐条病	20倍	－	浸種前 浸種後	1回	10分間 種子浸漬	3回以内 (種もみへの処理は 1回以内、は種後 は2回以内)	
		7.5倍	乾燥種粉 1kg当り30ml	浸種前		吹き付け処理 (種子消毒機 使用)又は 塗沫処理		
	もみ枯細菌病	400倍	200倍			24時間 種子浸漬		
	苗立枯細菌病 褐条病	400～ 800倍				48～72時間 種子浸漬		
	もみ枯細菌病	200倍	－			浸種後		5～24時間 種子浸漬
		乾燥種子 重量の 0.3～0.5%	浸種前			5時間 種子浸漬		
		苗立枯細菌病 褐条病						乾燥種子 重量の 0.5%
	もみ枯細菌病 葉鞘褐変病 内穎褐変病	1,000倍	60～150 ℓ /10a	穂ばらみ初期 ～乳熟期 但し、 収穫21日前 まで		2回以内		散布

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキシリニック酸を含む農薬の総使用回数	
なし	枝枯細菌病	1,000倍	200~700ℓ /10a	収穫45日前まで	3回以内	散布	3回以内	
もも	せん孔細菌病			収穫7日前まで				
ネクタリン	かいよう病							
小粒核果類 (すももを除く)	かいよう病 黒斑病							
すもも	かいよう病 黒斑病	2,000倍	100~300ℓ /10a	収穫14日前まで	2回以内		2回以内	
はくさい	軟腐病			2回以内	5回以内			
キャベツ	黒斑細菌病	1,000倍	2,000倍	収穫前日まで	2回以内		2回以内	
ブロッコリー		3回以内		3回以内				
だいこん	軟腐病	1,000倍		収穫7日前まで	5回以内		5回以内 (種いも浸漬は1回以内)	
カリフラワー				収穫14日前まで				
はなっこりー				5回以内	5回以内			
ピーマン				5回以内	6回以内 (種いもへの吹き付けは1回以内)			
ねぎ		30~100倍		種いも 1㎡当り 150mℓ	植付前	1回	種いも 吹き付け処理	1回以内、 植付後は5回以内)
たまねぎ								
ばれいしょ								
こんにゃく	腐敗病							
レタス	軟腐病 腐敗病 斑点細菌病	2,000倍	100~300ℓ /10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
非結球レタス	軟腐病 腐敗病			1,000倍				100~500ℓ /10a
エンダイブ	軟腐病	1,000倍	収穫7日前まで		2回以内		2回以内	
セルリー					3回以内		3回以内	
パセリ					2回以内		2回以内	
チンゲンサイ		2,000倍	100~500ℓ /10a	収穫前日まで	2回以内		2回以内	
らっきょう								
さんとうさい		1,000倍	100~300ℓ /10a	収穫7日前まで	3回以内		3回以内	
アスパラガス								
ズッキーニ	軟腐細菌病	1,000倍	100~300ℓ /10a	収穫7日前まで	3回以内		3回以内	
にんじん	軟腐病 斑点細菌病							
きく	斑点細菌病			5回以内		5回以内		

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	オキシリニック酸 を含む農薬の 総使用回数
カ ラ ー	軟腐病	30倍	球根100kg 当り1～3ℓ	定植前	1回	球根 吹き付け処理	1回
た ば こ	空洞病	1,000～ 1,500倍	25～180ℓ /10a	収穫10日前 まで	2回以内	散布	2回以内

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- (1)使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2)浸漬処理の場合は、粉と薬液の容量比は1：1以上とし、種粉はサラン網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆすること。
- (3)長時間浸漬の場合は、浸漬処理中に1～2回攪拌すること。
- (4)粉衣処理は付着をよくするため、湿粉衣とすること。
- (5)薬液処理した種粉は、風乾後、水洗いせずに浸種すること。
- (6)消毒後の浸種は水槽で行い、水の交換は原則として初めの2日間は行わないこと。その後水を換える場合は静かに行うこと。
- (7)稲に吹付け処理する場合、種子消毒機を使用し、種粉に均一に付着させて乾燥すること。また、塗沫処理の場合は、適当な容器内で種粉を攪拌しながら、薬液を滴下するなどして、種粉に均一に付着させること。
- (8)カラーに吹き付け処理する場合、噴霧器を使用し、球根全体に薬液を付着させること。また、薬剤処理後、風乾してから球根を定植すること。
- (9)野菜類の細菌病に使用する場合、多発条件下では効果が劣る例もみられるので注意すること。
- (10)適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。
- (11)本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (12)取扱及び保管上の注意、漏出時の措置、廃棄上の注意、輸送上の注意、火災時の措置については、11ページ、12ページを参照すること。

◆安全使用上の注意

- (1)誤飲、誤食などのないよう注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2)本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (3)使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

◆魚毒性

この登録に係る使用方法では該当がない。